

四面体 OABC が

$$OA=4, OB=AB=BC=3, OC=AC=2\sqrt{3}$$

を満たしているとする。P を辺 BC の点とし、 $\triangle OAP$ の重心を G とする。次の各問に答えよ。

(1) $\overrightarrow{PG} \perp \overrightarrow{OA}$ を示せ。

(2) P が辺 BC 上を動くとき、PG の最小値を求めよ。

< '22 京都大 >

【戦略 1】ベクトル路線

空間ベクトルの基本,

1 つの始点, 3 つの基底

という言葉に従い, 3 本の主役ベクトル (基底)

$$\overrightarrow{OA}=\vec{a}, \overrightarrow{OB}=\vec{b}, \overrightarrow{OC}=\vec{c}$$

を設定し, そのほかの登場人物を $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ で表していきます。

主役の情報 (長さ, 内積) については与えられた 6 辺の長さの情報から計算できます。

特に内積については余弦定理を経由せずとも, 2 乗展開を用いて計算します。(というかベクトルの 2 乗展開は余弦定理そのもの)

(1) $\overrightarrow{OP}=s\vec{b}+(1-s)\vec{c}$ ($0 \leq s \leq 1$) と表せまじし, それに伴って

$$\overrightarrow{OG}=\frac{\overrightarrow{OA}+\overrightarrow{OP}}{3}$$

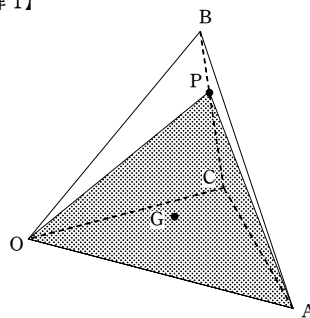
という形で, \overrightarrow{OG} も Get できます。

$\overrightarrow{PG} \cdot \vec{a} = 0$ を目指せばよく, 上記の主役の情報を駆使して計算していきます。

(2) $|\overrightarrow{PG}|^2 = |\circ \vec{a} + \triangle \vec{b} + \square \vec{c}|^2$ として 2 乗展開し, 主役の基本情報をぶち込んでいけば s についての 2 次関数となります。

したがって $0 \leq s \leq 1$ の範囲における 2 次関数の最小値を求める基本問題に帰着します。

【解 1】



$$\overrightarrow{OA}=\vec{a}, \overrightarrow{OB}=\vec{b}, \overrightarrow{OC}=\vec{c}$$

とする。

$$|\vec{a}|=4, |\vec{b}|=3, |\vec{c}|=2\sqrt{3}$$

$$|\overrightarrow{AB}|^2=9 \text{ より } |\vec{b}-\vec{a}|^2=9 \text{ で, } |\vec{b}|^2-2\vec{a} \cdot \vec{b}+|\vec{a}|^2=9 \therefore \vec{a} \cdot \vec{b}=8$$

$$|\overrightarrow{BC}|^2=9 \text{ より } |\vec{c}-\vec{b}|^2=9 \text{ で, } |\vec{c}|^2-2\vec{b} \cdot \vec{c}+|\vec{b}|^2=9 \therefore \vec{b} \cdot \vec{c}=6$$

$$|\overrightarrow{CA}|^2=12 \text{ より } |\vec{a}-\vec{c}|^2=12 \text{ で, } |\vec{a}|^2-2\vec{c} \cdot \vec{a}+|\vec{c}|^2=12 \therefore \vec{c} \cdot \vec{a}=8$$

(1) 辺 BC 上の点 P は

$$\overrightarrow{OP}=s\vec{b}+(1-s)\vec{c} \quad (0 \leq s \leq 1)$$

と表せる。

点 G は $\triangle OAP$ の重心なので,

$$\overrightarrow{OG}=\frac{\overrightarrow{OA}+\overrightarrow{OP}}{3}=\frac{1}{3}\vec{a}+\frac{s}{3}\vec{b}+\frac{1-s}{3}\vec{c}$$

$$\overrightarrow{PG}=\overrightarrow{OG}-\overrightarrow{OP}$$

$$\begin{aligned} &= \left(\frac{1}{3}\vec{a} + \frac{s}{3}\vec{b} + \frac{1-s}{3}\vec{c} \right) - (s\vec{b} + (1-s)\vec{c}) \\ &= \frac{1}{3}\vec{a} - \frac{2s}{3}\vec{b} - \frac{2(1-s)}{3}\vec{c} \end{aligned}$$

ゆえに,

$$\begin{aligned} \overrightarrow{PG} \cdot \vec{a} &= \frac{1}{3}|\vec{a}|^2 - \frac{2s}{3}\vec{a} \cdot \vec{b} - \frac{2(1-s)}{3}\vec{c} \cdot \vec{a} \\ &= \frac{1}{3} \cdot 16 - \frac{2s}{3} \cdot 8 - \frac{2(1-s)}{3} \cdot 8 \\ &= 0 \end{aligned}$$

よって, $\overrightarrow{PG} \perp \overrightarrow{OA}$

$$(2) |\overrightarrow{PG}|^2 = \left| \frac{1}{3}\vec{a} - \frac{2s}{3}\vec{b} - \frac{2(1-s)}{3}\vec{c} \right|^2$$

$$= \frac{1}{9}|\vec{a} - 2s\vec{b} - 2(1-s)\vec{c}|^2$$

$$= \frac{1}{9} \{ |\vec{a}|^2 + 4s^2|\vec{b}|^2 + 4(1-s)^2|\vec{c}|^2 - 4s\vec{a} \cdot \vec{b} + 8s(1-s)\vec{b} \cdot \vec{c} - 4(1-s)\vec{c} \cdot \vec{a} \}$$

$$= \frac{1}{9} \{ 16 + 36s^2 + 48(1-s) - 32s + 48s(1-s) - 32(1-s) \}$$

$$= \frac{1}{9} (36s^2 - 48s + 32)$$

$$= \frac{4}{9} (9s^2 - 12s + 8)$$

$$= 4 \left(s - \frac{2}{3} \right)^2 + \frac{16}{9}$$

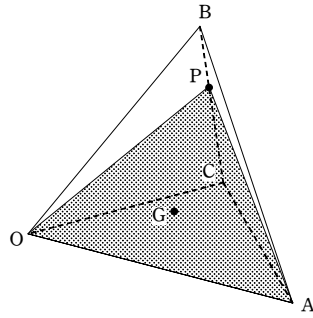
$0 \leq s \leq 1$ の範囲では, $s = \frac{2}{3}$ で $|\overrightarrow{PG}|$ は最小となり, その最小値は

$$\sqrt{\frac{16}{9}} = \frac{4}{3} \dots \text{答}$$

【戦略2】幾何的路線

元々、 $\triangle COA$ は
 $CO = CA$
 の二等辺三角形です。

この四面体 $OABC$ は私が
 「三脚錐」
 と(勝手に)呼んでいるもので
 $BO = BA = BC$
 を満たしています。(カメラの三脚)



三脚錐について、この B から底面に下ろした垂線の足は、
 底面 $\triangle COA$ の外心
 になります。

二等辺三角形 $\triangle COA$ を三脚の足 BC に沿って上げていった $\triangle POA$ も
 $PO = PA$ の二等辺三角形となります。

そう考えると、(1) は自明ですし、(2) は線分 OA の中点を M とすると

$$PG = \frac{2}{3}PM$$

$$= \frac{2}{3}\sqrt{OP^2 - 2^2}$$

なので、 OP が最小となるときをとらえればよいことになります。

【解2】

(1) $\triangle BCA, \triangle BCO$ について

$$\begin{cases} BC \text{ は共通辺} \\ CA = CO \\ BA = BO \end{cases}$$

より、 $\triangle BCA \equiv \triangle BCO \dots \textcircled{1}$

また、 $\triangle ABP, \triangle OBP$ について

$$\begin{cases} BP \text{ は共通辺} \\ AB = OB \\ \angle ABP = \angle OBP (\because \textcircled{1}) \end{cases}$$

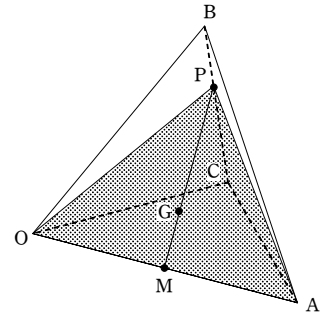
ゆえに、2 辺とその間の角が等しいため、 $\triangle ABP \equiv \triangle OBP$

これより、 $\triangle POA$ は $PO = PA$ の二等辺三角形である。

線分 OA の中点を M とすると、

$$\begin{cases} P, G, M \text{ は同一直線上} \\ PM \perp OA \end{cases}$$

ゆえに、 $PG \perp OA$ が成立し、題意は示された。



(2) $PG = \frac{2}{3}PM$

$$= \frac{2}{3}\sqrt{OP^2 - 2^2}$$

であることから、 OP の長さが最小となるとき

を考えればよい。

$\triangle OBC$ において余弦定理から

$$\cos B = \frac{3^2 + 3^2 - (2\sqrt{3})^2}{2 \cdot 3 \cdot 3}$$

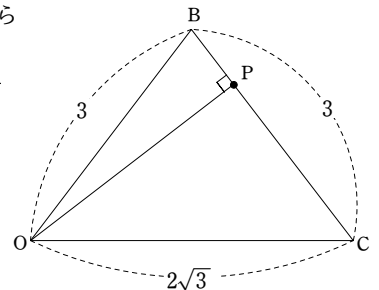
$$= \frac{1}{3}$$

$\sin B > 0$ なので

$$\sin B = \sqrt{1 - \cos^2 B}$$

$$= \sqrt{1 - \frac{1}{9}}$$

$$= \frac{2\sqrt{2}}{3}$$



OP が最小となるとき、 $OP \perp BC$ より、 $OP = 3\sin B = 2\sqrt{2}$

よって、 PG の最小値は $\frac{2}{3}\sqrt{(2\sqrt{2})^2 - 4} = \frac{4}{3} \dots \text{答}$

【総括】

幾何的路線については見えるか見えないかの問題になってきます。

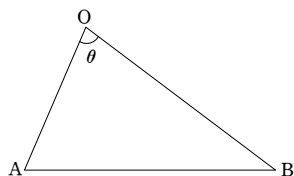
試験場ではベクトルでゴリゴリ進めていくのが得策で、この場合、京大受験生であれば迷う余地はありませんし、迷う余地があってはならないでしょう。

【補足1】

△OAB で余弦定理を用いると

$$AB^2 = OA^2 + OB^2 - 2OA \cdot OB \cdot \cos \theta$$

これをベクトルでいうと



$$|\vec{OB} - \vec{OA}|^2 = |\vec{OA}|^2 + |\vec{OB}|^2 - 2\vec{OA} \cdot \vec{OB}$$

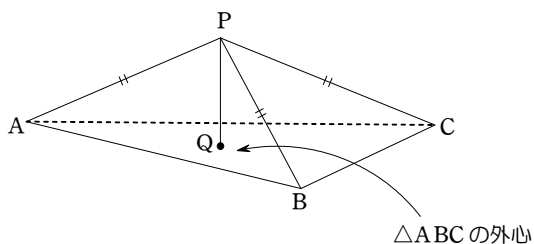
ということになります。(これはあたかも2乗展開したように見えます)

つまり、ベクトルにおいて2乗展開をした時点で

あなたは余弦定理を知らず知らずのうちに使っている

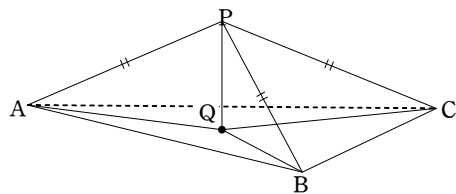
ということになります。

【補足2】



PA = PB = PC を満たす四面体 PABC に対し、点 P から底面 ABC に下ろした垂線の足 Q は △ABC の外心となる。

(証明)



直角三角形 PQA, PQB, PQC について三平方の定理から

$$QA = \sqrt{PA^2 - PQ^2}$$

$$QB = \sqrt{PB^2 - PQ^2}$$

$$QC = \sqrt{PC^2 - PQ^2}$$

条件 PA = PB = PC より、QA = QB = QC が成り立つ。

ゆえに、点 Q は △ABC の外心である。